

## 第4章 自己指導能力の育成に向けた組織的・計画的な生徒指導の在り方

組織的・計画的に生徒指導を推進するためには、児童生徒の実態に即し、どのような活動をどのような時期に取り組んでいけばよいのかを全教職員が共通理解し、共通実践することが必要である。本章では、児童生徒への具体的な対応や教育活動について、また、児童生徒の実態に応じて教育活動を位置付ける生徒指導の年間指導計画例について提案する。なお、ここで示す具体的な手だてや教育活動、年間指導計画例は、先行する研究資料、文献等を参考にして作成したものである。

### 1 実態に応じた指導・援助

ここでは、第3章で示した6つの観点を高める手だてとして、有効と考える個、集団への対応について述べる。まず、個への対応においては、教育相談はもちろんのこと、日々の児童生徒とのかかわりが重要である。

#### 友達との関係を高める

- 児童生徒自身が友達関係をどのように感じているか、楽しさだけでなくつらさなどについて共感的に聞く。
- 友達との関係の改善、向上のための方法を教師と一緒に考えることを提案する。
- 友達関係を高める上で、教師にしてほしいこと（見守り、話の聞き役、具体的支援など）を聞く。
- 必要に応じてソーシャルスキルを取り入れながら、友達とかわるスキルを教える。

#### 教師との関係を高める

- 情報を収集し児童生徒の状況を察知し、その時にふさわしい勇気付ける言葉掛けを行う。
- 児童生徒の興味・関心のある話題や活動を一緒にしながら心をほぐし、関係づくりを行う。
- 教師が自己開示し、児童生徒が自己開示しやすくなるよう話しやすい雰囲気をつくる。
- 呼称、温かい眼差しや表情、言動などから、「あなたは大切な存在だ」というメッセージを送る。

#### 学習意欲を高める

- 学習につまずいている要因について、児童生徒から丹念に話を聴き情報を収集する。
- どんなに小さなことでも、今現在、児童生徒が取り組んでいる努力を認める。
- 児童生徒の思い込み（勉強しても無駄だ。私には難しいから分からない。）や先入観をほぐす。
- 児童生徒が実現可能な具体的な目標を提示し、やり遂げるまでじっくり見届ける。

#### 自己肯定感を高める

- 児童生徒の長所や短所、頑張りなど、よいところも悪いところも気付かせる。
- 他者でなく、過去の自分との比較から成長に気付かせ、教師もともに喜ぶ。
- 性格面、行動面による失敗について、児童生徒の不安や弱音を傾聴し、共感的に理解する。
- 児童生徒と周りの人の絆（支え、支えられている存在）に気付かせ、勇気付けを行う。

#### 心身の状態を高める

- 「辛いものは辛い」という思いを「気持ちの問題」として片付けず、身体を本気で心配する。
- 児童生徒が喜怒哀楽を自然に表現でき、不安や緊張を和らげる雰囲気をつくる。
- 不安や不満、怒りなど児童生徒のもつネガティブな気持ちを傾聴し、共感的に理解する。
- 児童生徒の欠点をリフレーミングし、現在の自分のよいところを発見させ、認める。

#### 学級集団における適応感を高める

- 児童生徒のもつよさを認め、「大切な学級の一員」であることに気付かせる。
- 学級における居心地の悪さなどの気持ちを傾聴し、共感的に理解する。
- 充実した学級生活を送る上で、教師にしてほしいこと（見守り、話の聞き役、具体的支援など）を聞く。
- 学級での役割（係）を明確に示し、その意義や価値を話したり、評価を与える。

次に、集団への対応においては、6つの観点を高める手だてとして、「ア ポイント」、「イ 場や機会」、「ウ 教師のかかわり」、「エ 教育活動例」を示した。「ウ 教師のかかわり」については、教師が日常を振り返ることで確認できるようにチェックポイントとしてまとめた。また、教育活動例においては学校カウンセリングの技法を活用した取組を紹介する。